

## 健康・医療心理学

《担当者名》本谷 亮 ( motoyan@hoku-iryu-u.ac.jp )

## 【概要】

公認心理師が担当し、活躍を期待されている5領域（「保健医療」、「福祉」、「教育」、「司法・犯罪」、「産業・労働」）の中でも、「保健医療」領域は、公認心理師養成カリキュラムのなかでも、外部実習が必修とされるなど、特に重要な領域である。実際、心理職のうち、「保健医療」領域に勤務する割合は高いほか、他領域であっても、「保健医療」領域の専門家との連携は非常に多い。そして、「保健医療」領域における心理職の基盤となるものが「健康・医療心理学」の知識と技術である。

「健康・医療心理学」は、特に「保健医療」機関で不可欠な疾患、アセスメント、心理的支援について網羅的に学ぶ科目である。また、単に専門的知識、技術のみではなく、心理学的支援を円滑、かつ効果的に進めるための連携についても学習する。本科目は、臨床心理学はもちろんのこと、神経・生理心理学、発達心理学、人体の構造と機能及び疾病、精神疾患とその治療、心理的アセスメントなど、さまざまな科目と関連する部分が多い。そのため、本科目を通して、関連科目の学びが統合的に深まり、3年次以降の健康・医療心理学 を含めた実践科目、および実習科目で求められる知見が習得できることを目指す。

## 【学修目標】

健康心理学、医療心理学の特徴と実際を理解する。

医療機関での心理職の役割を理解する。

医療現場における心理社会的課題及び必要な支援を理解する。

ストレスと心身の疾病の関係を理解する。

さまざまな保健活動において必要な心理に関する支援を理解する。

医療機関で心理職が実践する主なアセスメントの特徴と実際を理解する。

精神科、小児精神科、心療内科、小児科、神経科領域における心理職の役割と支援の実際を理解する。

難治性疾患、慢性疾患、依存症、身体疾患の合併症例における心理職の役割と支援の実際を理解する。

災害心理学の意義、災害が引き起こす諸問題、および災害時等に必要な心理に関する支援を理解する。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	健康心理学・医療心理学概論	健康心理学、医療心理学の特徴、意義、活動の実際について学習する。	本谷 亮
2	医療機関における心理職	医療機関での心理職の役割について学習する。また、チーム医療、多職種連携の目的と意義、および臨床現場における心理社会的課題と必要な支援について学ぶ。	本谷 亮
3	ストレスと心身の疾病	ストレスモデル、ストレス反応、およびストレスに関連して引き起こされる疾病について学習する。	本谷 亮
4	心身症	心身症の定義、代表的な疾患とその特徴について学習する。また、心身症に対する心理学的支援の実際を学ぶ。	本谷 亮
5	保健活動における心理支援	さまざまな保健活動において必要な心理に関する支援を学習する。また、ストレスマネジメントの基本的発想、特徴、および臨床現場における実際について学ぶ。	本谷 亮
6	医療心理学におけるアセスメント	医療機関において心理職が実践する主なアセスメントについて種類、特徴、意義、実際を学習する。また、保健医療領域におけるインタビュー面接の特徴と実際も学ぶ。	本谷 亮
7	医療心理学の実際1 (小児・思春期)	神経発達症、小児疾患の主な特徴と患者の抱える問題、および心理学的支援について学習する。	本谷 亮
8	医療心理学の実際2 (成人期・高齢期)	代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病、不安症、摂食障害など）の主な特徴と患者の抱える問題、および心理学的学支援について学習する。	本谷 亮
9	難治性疾患、慢性疾患	難病、AIDS、慢性疾患の主な特徴と患者の抱える問題、および心理学的支援について学習する。	本谷 亮

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
10	神経科・リハビリテーション領域	高次脳機能障害、脳血管障害後遺症の主な特徴と患者の抱える問題、および心理学的支援について学習する。	本谷 亮
11	がん、緩和医療	がんの主な特徴と患者の抱える問題、および心理的支援について学習する。また、緩和医療の特徴と心理学的支援の実際について学ぶ。	本谷 亮
12	生活習慣病	肥満症、糖尿病に代表される生活習慣病の主な特徴と患者の抱える問題、および心理的支援について学習する。また、生活習慣病患者に対する行動変容の基本的発想と技法を学ぶ。	本谷 亮
13	依存症	代表的な依存症（ギャンブル依存症、アルコール依存症、薬物依存症）をとりあげ主な特徴と患者の抱える問題、および心理学的支援について学習する。	本谷 亮
14	災害心理学1	災害心理学にて扱う問題と意義について学習する。また、災害が引き起こす諸問題とその特徴を学ぶ。	本谷 亮
15	災害心理学2	災害時等に必要な心理に関する支援について学習する。また、支援者の抱える諸問題と支援者に対する支援の実際を学ぶ。	本谷 亮

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

ワークシート20%、期末試験（筆記試験）80%

【教科書】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

宮脇 稔・大野太郎・藤本 豊・松野俊夫（編）「健康・医療心理学」（医歯薬出版株式会社）

鈴木伸一（編）「からだの病気のこころのケア」（北大路書房）

公認心理師ベーシック講座 健康・医療心理学

健康・医療心理学（公認心理師スタンダードテキストシリーズ16）

【学修の準備】

・毎回、講義冒頭で実施する復習問題で全問正解できるように、前回の講義内容を復習しておくこと（2時間）

・シラバス記載の内容を参考に、参考書、関連書、インターネットなどを用いて講義内容を予習すること。また、講義内で課す事前ワークシートを作成、提出すること（2時間）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP4 公認心理師の活動に関連する知識・技術を修得している。

DP5 対人支援における多職種連携の重要性を認識している。

上記に掲げる心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。

【ICTの活用】

学習教材（授業資料）の配信や学習課題の提示ではGoogle Classroomを利用する。また、出席・理解度確認にはGoogle Formsも活用する。詳細は、講義内で説明する。

【実務経験】

公認心理師

【実務経験を活かした教育内容】

主として医療現場での臨床経験に基づき、事例を取り入れ、実践的な講義を展開する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している